

平成 30年 07月 09日

国土交通大臣 殿

地域型住宅グリーン化事業 適用申請書  
【平成30年度】

本申請書の内容により、地域型住宅グリーン化事業の適用を申請します。  
この申請書及び添付資料に記載の事項は、事実と相違ありません。

地域型住宅の名称 ぎふの杉を使う小さな家

グループの名称 岐阜・愛知の街並みを向上させる草の根運動

直近採択グループ番号 06-0249-0405

(グループ代表者)

代表者名	久林 欣也	代表者印
代表者所属先	住生活空間株式会社	
代表者所在地	東京都新宿区高田馬場3-46-25 IDビル5階	
代表者電話番号	03-5338-2388	

(グループ事務局)

事務局事業者名	住生活空間株式会社	
事務局担当者名	大橋 義彦	印
事務局郵便番号	491-0023	
事務局所在地	愛知県一宮市赤見4-13-1	
事務局電話番号	0586-23-3218	
事務局FAX	0586-23-3217	
事務局担当者E-mail	ohashi@hls.co.jp	

1. 地域型住宅の名称(必須)	ぎふの杉を使う小さな家
2. グループの名称(必須)	岐阜・愛知の街並みを向上させる草の根運動
3. 直近採択グループ番号(必須)	06-0249-0405
4. 地域型住宅供給対象地域(必須)	岐阜県全域、愛知県
5. 結成年(必須)	2012 年
6. グループ代表者名(必須)	久林 欣也
7. グループ代表者の所属先(必須)	住生活空間株式会社
8. グループ代表者所在地(必須)	東京都新宿区高田馬場3-46-25 IDビル5階
9. グループ代表者電話番号(必須)	03-5338-2388
10. グループ事務局事業者名(必須)	住生活空間株式会社
11. グループ事務局担当者名(必須)	大橋 義彦
12. グループ事務局郵便番号(必須)	491-0023
13. グループ事務局所在地(必須)	愛知県一宮市赤見4-13-1
14. グループ事務局電話番号(必須)	0586-23-3218
15. グループ事務局FAX番号(必須)	0586-23-3217
16. グループ事務局担当者E-mail(必須)	ohashi@hls.co.jp

(構成員数)		(構成員を含まない理由)
I. 原木供給	11	
II. 製材・集成材製造・合板製造	16	
III. 建材流通(木材を扱わない事業者を除く)	7	
IV. プレカット	6	
V. 設計	6	
VI. 施工	9	
VII. 木材を扱わない流通	1	
VIII. I～VII以外の業種	2	

A. 使用する地域材に関する事項 (必須)	対象となる地域材の名称	地域材の産地	認証制度等の名称		国内・国外
			番号記入欄		
<input checked="" type="checkbox"/> 合法木材証明制度を利用する <input type="checkbox"/> 合法木材証明制度を利用する <input type="checkbox"/> PEFC認証制度を利用する <input type="checkbox"/> PEFC認証制度を利用する <input type="checkbox"/> SGEC認証制度を利用する <input type="checkbox"/> FSC認証制度を利用する <input type="checkbox"/> FSC認証制度を利用する <input type="checkbox"/> FIPIC認証制度を利用する <input type="checkbox"/> クリーンウッド法に基づく証明 <input type="checkbox"/> クリーンウッド法に基づく証明		国産材		3	国内
		外材		3	国外
		国産材		2	国内
		外材		2	国外
		国産材		2	国内
		国産材		2	国内
		外材		2	国外
		国産材		2	国内
		国産材		4	国内
		外材		4	国外
	ぎふ証明材	岐阜県	ぎふ証明材推進制度	1	国内
	ぎふ性能表示材	岐阜県	岐阜性能表示材推進制度	1	国内

B. 平成30年度における補助対象の木造住宅 の申請要望戸数、地域材加算要望戸数、 三世帯同居対応加算要望戸数(必須)	長寿命型	長期優良住宅	経験工務店(4戸(8戸)以上)の申請戸数	今年度要望する戸数(上限100万円)		10	戸		
				加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	10	戸		
					上記の内、三世帯同居加算を要望(上限30万円)	0	戸		
				その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限100万円)		5	戸		
				加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	5	戸		
					上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円)	0	戸		
	長寿命型	長期優良住宅	未経験工務店(3戸(7戸)以下)の申請戸数	今年度要望する戸数(上限110万円)		3	戸		
				加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	3	戸		
					上記の内、三世帯同居加算を要望(上限30万円)	0	戸		
				その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限110万円)		3	戸		
				加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	3	戸		
					上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円)	0	戸		
	高度省エネ型	認定低炭素住宅	経験工務店(4戸(8戸)以上)の申請戸数	今年度要望する戸数(上限100万円)		5	戸		
				加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	5	戸		
					上記の内、三世帯同居加算を要望(上限30万円)	0	戸		
				その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限100万円)		3	戸		
				加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	3	戸		
					上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円)	0	戸		
		認定低炭素住宅	未経験工務店(3戸(7戸)以下)の申請戸数	今年度要望する戸数(上限110万円)		5	戸		
				加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	5	戸		
					上記の内、三世帯同居加算を要望(上限30万円)	0	戸		
				その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限110万円)		3	戸		
				加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	3	戸		
					上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円)	0	戸		
性能向上計画認定住宅		経験工務店(4戸(8戸)以上)の申請戸数	今年度要望する戸数(上限100万円)		3	戸			
			加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	3	戸			
				上記の内、三世帯同居加算を要望(上限30万円)	0	戸			
			その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限100万円)		3	戸			
			加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	3	戸			
				上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円)	0	戸			
性能向上計画認定住宅		未経験工務店(3戸(7戸)以下)の申請戸数	今年度要望する戸数(上限110万円)		3	戸			
			加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	3	戸			
				上記の内、三世帯同居加算を要望(上限30万円)	0	戸			
			その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限110万円)		3	戸			
			加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	3	戸			
				上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円)	0	戸			
ゼロ・エネルギー住宅	経験工務店(4戸(8戸)以上)による申請戸数	今年度要望する戸数(上限125万円)		0	戸				
		加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	0	戸				
			上記の内、三世帯同居加算を要望(上限30万円)	0	戸				
		その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限125万円)		0	戸				
		加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	0	戸				
			上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円)	0	戸				
ゼロ・エネルギー住宅	未経験工務店(3戸(7戸)以下)による申請戸数	今年度要望する戸数(上限140万円)		0	戸				
		加算申請	上記の内、地域材加算を要望(上限20万円)	0	戸				
			上記の内、三世帯同居加算を要望(上限30万円)	0	戸				
		その内9月までに交付申請が確実にできる戸数(上限140万円)		0	戸				
		加算申請	上記の内、地域材加算の申請が確実(上限20万円)	0	戸				
			上記の内、三世帯同居加算の申請が確実(上限30万円)	0	戸				
C. 平成30年度当初予算における補助対象の優良建築物の申請要望棟数及び床面積	優良建築物の申請棟数		今年度要望する棟数及び面積		0	棟			
					0	m <sup>2</sup>			
			その内9月までに交付申請が確実にできる棟数及び面積		0	棟			
					0	m <sup>2</sup>			
D. 当提案が採択された場合の各住宅事業者における補助対象戸数の配分ルール(必須)	受注の先着順で割り振りを行う(顧客印のある契約書・申込書・その他左記に準ずる書類で確認) 補助金の残棟数については随時割当が発生するたびにFAX等で各社に通知する。								
E. 平成29年度の執行状況(必須)	長寿命型(長期優良住宅)								
	採択戸数	3	戸	交付申請戸数	0	戸	完了実績(竣工予定含む)戸数	0	戸
	高度省エネ型(認定低炭素住宅)								
	採択戸数	1	戸	交付申請戸数	1	戸	完了実績(竣工予定含む)戸数	0	戸
	高度省エネ型(性能向上計画認定住宅)								
	採択戸数	0	戸	交付申請戸数	0	戸	完了実績(竣工予定含む)戸数	0	戸
高度省エネ型(ゼロ・エネルギー住宅)									
採択戸数	0	戸	交付申請戸数	0	戸	完了実績(竣工予定含む)戸数	0	戸	
優良建築物型									
採択棟数	0	棟	交付申請戸数	0	棟	完了実績(竣工予定含む)棟数	0	戸	
採択床面積	0	m <sup>2</sup>	交付申請床面積	0	m <sup>2</sup>	完了実績(竣工予定含む)床面積	0	m <sup>2</sup>	



















1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須)	(地域型住宅の名称) ぎふの杉を使う小さな家	(地域型住宅供給対象地域) 岐阜県全域、愛知県
2. グループの名称・結成年(必須)	(グループの名称) 岐阜・愛知の街並みを向上させる草の根運動	(結成年) 2012 年
3. 過去のグリーン化事業採択グループ番号(必須)	06-0249-0405	
4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。 ※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取組に違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。		
ア. 特徴ある地域型住宅の目標設定		
【平成30年度対応方針】		◎、○ 記入欄
①地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の重視する性能	岐阜県の平野部・東濃・西濃地域、愛知県西部は、全国的に見ても夏の気温が非常に高い。逆に冬は太平洋側の大都市圏の中では降雪も比較的多く、「伊吹おろし」と言われる北西の強風が寒さを際立たせる。上記から、夏は日差しを遮り、風通しを良く、冬は日差しを取り入れつつ、しっかりと断熱で暖か過ぎるような家が求められる。具体的には、軒の出や庇をしっかりと設けながらも開口部を適切に配置し、断熱も確実に高い基準を満たすことが必要である。	◎
②地域の気候・風土等に根差した地域型住宅の建て方や様式	当グループの活動エリアでは、「本屋普請」といわれる切妻・入り母屋の屋根形状、どっしりとした安定感のある見た目の木造住宅が伝統的に建てられている。そういったベーシックな住宅のシルエット、イメージを壊さないようにしたい。具体的には箱型のモダンデザイン、奇抜かつ複雑すぎる形状の家は避けることとする。	◎
③地域の気候・風土等に根差した地域型住宅のデザインルール	当グループでは地域の特徴を活かし良い街並み形成のために岐阜の美しい杉を活かした飽きないシンプルなデザイン(素材は地域の王道に沿い、デザインは伝統を新たに発展させる)とし、誰もが手にできる暮らしやすいコンパクトな家を提案する。木素材を見せる(梁柱、床材)部分、木を見せない(壁・天井は塗りなどで仕上げる)部分のバランスを重視する。どちらかが極端かつ不自然に多いとデザイン的なバランスが崩れ、素材を逆に活かしていないように見えるので注意する。	◎
④①～③の背景	当グループが家づくりを行うエリアでは、市街地では低層狭小な木造住宅が多い。ごく一部では伝統的な地域では美しい町屋が存在(高山市・美濃市・岐阜市など)するが、郊外では主に大手メーカーやビルダーによる住宅開発が進み、性能重視の画一的で特徴のない街並みを形成しているとともに、デザインも性能も持続性のないものが多い。そんな地域の町並みに一石を投じたいと考えと共に、その過程で家づくりに関わる人すべてが「楽しめる」「考える・造る・住む意義を感じる」家づくりを目指したい。	◎
⑤その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。		
イ. 効率的で適切な就業環境が確保された住宅生産体制の整備		
【平成30年度対応方針】		◎、○ 記入欄
a		
①-1 用材の寸法規格化	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 左記の仕様が網羅された仕様表があるのでそれを必ず使うこと。(例: 架構材4寸材、その他羽柄材等も基準あり)	◎
①-2 使用建材の統一	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 資材発注リスト、仕入表を各案件で統一することで8割程度の材料が共有・共通使用することができると考える。発注作業も大幅に減らせる。残る2割程度の資材はその家の特徴につながるので積極的にその家独自の良い案を出していただけるようにする。	◎
①-3 標準仕様の設定	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 左記の仕様が網羅された仕様表があるのでそれを必ず使うこと。(ただし、上記の通りその家独自の取組みを阻害するものではない)	◎
②-1 建材・資材調達の見直し	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 上記発注リストの使用状況を定期的にチェックする。クラウド等を利用して誰もがそれぞれの案件の発注リストデータにアクセスできるようにし、常に最新の素材、そしてアイデアが見られるようにする。古い情報はこの場合不都合を及ぼすので、月に一度程度不要な資材を製品名等具体的に挙げ、周知する体制をとる。	◎
②-2 調達事務の合理化	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: ①-2のとおり、資材発注リストを事務局で作成し、その共有により、調達作業の合理化をはかり、業務を減らす。	◎
③ 生産の合理化等に向けた検討委員会等の設置	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 事務局が主体となり、定期的に会議を開催する。	○
④ 生産の合理化等に向けて事務局が果たす役割	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 基準策定、運用による改善点の拾い出し等重要である。	○
b		
① グループの信頼性向上に向けた施工基準	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 工程表、設計図面、施工図等必要図書基準を整備する。特に施工図についてはチェックリストを必ず使用し、現場ごとにプレが出ないようにする。	◎
② グループの信頼性向上に向けた検査ルール	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 検査チェックシートの活用、他現場の監督等現場熟練者による第三者チェックを行う。	◎
③ グループの信頼性向上に向けた見積・積算のルール	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 仕様表/積算書式を統一する。仕様パターン、仕様等の提案システムの構築を行う。	○
④ グループの信頼性向上に向けたその他の具体的取組	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 顧客の要望をしっかりと応える。特に変更要望には積極的に応じる姿勢が肝心。現場内はもとより顧客ともコミュニケーションを最重視し、メリット/デメリットを隠さず素直に説明すること。	◎
c		
① 週休2日制の導入の取組	<input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容: 現場管理体勢としてはほんの一部ではあるが実施されている。しかし作業員やグループ各社で統一されているわけではない。昨今働き方改革が問われるので徐々に制度を制定し推進していきたい。	○
② 技能や経験にふさわしい処遇の実現に向けた取組	<input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容: グループ全体での統一した処遇の制定は困難であるが、一部グループ内企業では資格や経験において処遇が厚遇される制度が実施されているので情報交換をしていきたい。	○
③ 社会保険への加入	<input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容: グループ全体での統一した保険加入の強制等は困難であるが、一部グループ内企業では制度が実施されているので情報交換をしていきたい。	○
④ 安全及び健康の確保のための取組	<input checked="" type="checkbox"/> ない <input type="checkbox"/> ある → 内容: 一部作業現場においては長期休暇(正月休み、GW休み、お盆、SW休み等)で一定日数現場を閉鎖して作業できない体勢を取るなどの対応を進め始めている。	○
その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。	上記のような日々の活動を、ブログやSNS等でどんどん紹介する。	◎

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須)	(地域型住宅の名称) ぎふの杉を使う小さな家	(地域型住宅供給対象地域) 岐阜県全域、愛知県		
2. グループの名称・結成年月(必須)	(グループの名称) 岐阜・愛知の街並みを向上させる草の根運動	(結成年) 2012 年		
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須)	06-0249-0405			
4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取り組み」の場合は○印、「グループが目指す目標」の場合は□印を右欄に記入してください。 ※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取組に違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。				
ウ. 長期にわたる住宅メンテナンス体制の整備				
【平成30年度対応方針】				
a	① 住宅蓄積履歴情報の	◎、○ 記入欄		
①-1	内容・蓄積の共通ルール	□ ない ■ ある → 内容: ・竣工後1年間は半年ごと、その後15年間は年1回点検を行う。その時期と、点検に来たことが分かる押印欄のある書式とする。	◎	
①-2	情報サービス機関の活用	■ ない □ ある → 内容: 外部サービスを必要とはしていないため、活用しない。履歴の蓄積はシンプルなど確実であり(顧客が①-1書式を各権利書類と同等に保存する)、顧客・施工者以外の機関が安易に入るべきではないと考える。	◎	
①-3	履歴情報蓄積の確認手法	□ ない ■ ある → 内容: ①-1の書式により確認する。	○	
② メンテナンス基準	②-1	点検の共通ルール	□ ない ■ ある → 内容: 定期あるいは期日を設け上記①様式で点検する。設備等を交換することを強制することはしない。不必要な出費を安易にさせるのはお互いに不本意である。	◎
②-2	補修の共通ルール	□ ない ■ ある → 内容: 追加工事や交換の必要性があるものは丁寧に説明し、理解を得た上で工事を承ることとする。他現場等で起きているメンテナンス工事を時期と内容を共有化し、的確なアドバイスを行う。	○	
②-3	点検補修実施の確認手法	□ ない ■ ある → 内容: 竣工年月別のデータベースを作成、年間点検カレンダー(兼チェック表)を作成し、点検を確実に実施する。	◎	
③ 住まいの管理	③-1	住まい管理勉強会の実施	■ ない □ ある → 内容:	○
③-2	DIY体験会等の実施	□ ない ■ ある → 内容: フローリング材等を活用した家具作り教室を行う。単なる残材活用的なものではなく、デザインに特化した価値のある特別な家具作りを行う。	◎	
③-3	その他の相談会等の実施	□ ない ■ ある → 内容: ③-1のように勉強会形式ではなく、個別の点検時に家の管理具合をチェックするとともに不具合や疑問点等をヒアリングする。そしてその顧客に合った維持管理方法やDIY事例を紹介する。	○	
④	維持管理委員会等の設置	□ ない ■ ある → 内容: 定期に開催される会議にて各戸の訪問時の顧客の不具合・質問等を拾い上げたデータベースを作成する。	○	
⑤	その他の維持管理の手法	□ ない ■ ある → 内容: 維持管理は住む方次第であり、原理としては個別アドバイスが第一優先であるとする。手間はかかるが、点検訪問時に各所の維持を丁寧にアドバイスする。	◎	
b	①	グループ構成員の倒産廃業時のバックアップルール	□ ない ■ ある → 内容: ・各施工構成員が登録する保険業者において完成保証等に対応できるよう登録をする。 ・維持管理について前述の点検書式と点検の実施に対する理解を深め、万の際にもグループ構成員会社社がそれを引き継ぎ、スムーズに点検・メンテナンス体制を維持できるようにする。	○
②	過去の瑕疵内容等に学ぶ勉強会の実施	□ ない ■ ある → 内容: ・上記④と共通化し「現場気づきリスト」の策定を行っている。 毎月設計・現場ごとにデータベース化。	○	
その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。				
エ. グループの技術力の向上				
【平成30年度対応方針】				
a	①	未経験工務店等への施工技術研修会等の開催	□ ない ■ ある → 内容: 施工事例の紹介や設計方法の詳しい説明、申請、施工の注意点についての研修会を行う。またこれらを事務局が補助することも説明する。前項までの共有データ構築含めでの作業、会議招集、議長および議事取りまとめを事務局が行うこととする。	◎
②-1	品質管理のための共通ルール	□ ない ■ ある → 内容: 4.1a.①-2様式の書式等を活用してブレのない品質の仕入れ、4.1b.①及び②の現場運営の書式活用、検査体制の実施を行う。	◎	
②-2	上記共通ルールが守られていることの確認手法	□ ない ■ ある → 内容: プレカスト承認時、毎月の各下請からの請求時などこの書式を添付したうえで決裁することにより、書式の運用をチェックする	◎	
③-1	需給計画の策定	□ ない ■ ある → 内容: 今後の税制などの政策や市場動向から受注の先行きは読みにくい、人員計画および実績から具体的な予測及び目標棟数を策定。	◎	
③-2	技術力向上のための中長期的な計画	□ ない ■ ある → 内容: 建築士や施工管理技士等の資格取得を推進する。また「こだわった家づくり」に興味を持ってもらえるよう、最新の建築知識や顧客のニーズを敏感に捉え、真摯に取り組む。	◎	
④	③に基づく業種ごとの合理化の取組	□ ない ■ ある → 内容: 顧客紹介、資格学校紹介、セミナー紹介など随時情報回覧する。	○	
b	①-1	省エネ技術講習会への施工事業者社員の参加人数	昨年度までの終了者数 3 今年度の参加目標人数 2	○
①-2	省エネ技術講習会への請負技能者等の参加人数	昨年度までの終了者数 2 今年度の参加目標人数 2	○	
②	省エネ技術講習会への参加促進のための取組	□ ない ■ ある → 内容:	○	
c	①	新たな技術等の導入	□ ない ■ ある → 内容: 複数現場での施工しながらの職人交流をし、無駄がなく、かつ美しい納まりを研究する。施工現場の業者向け見学会を実施	○
②	新たな技術等の開発	□ ない ■ ある → 内容: 顧客に「モニター制度」と説明して、実験に参加していただく。特に床下を利用した空調等室内環境設備についてはより多く採用し、効果を蓄積していきたい。	◎	
その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。				

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須)	(地域型住宅の名称) ぎふの杉を使う小さな家	(地域型住宅供給対象地域) 岐阜県全域、愛知県
2. グループの名称・結成年月(必須)	(グループの名称) 岐阜・愛知の街並みを向上させる草の根運動	(結成年) 2012 年
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須)	06-0249-0405	

4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み ※記入した内容において「必ず実施する取組み」の場合は◎印、「グループが目指す目標」の場合は○印を右欄に記入してください。  
※住宅と建築物(非住宅)の両方を申請する場合において、取組に違いがある場合は、その旨を具体的に記入してください。

オ. 地域の産業・住文化・景観等への寄与

【平成30年度対応方針】

			◎、○ 記入欄												
a	① 地域材利用に関する共通ルール(必須)	・構造材(柱・梁・桁・母屋・小屋束・土台)はぎふ証明材/ぎふ性能表示材を使用する。 ・4寸材使用、柱はスギまたはヒノキ、梁桁母屋はスギ、土台はヒノキを使用する。 ※上記、構造計算により、ごく部分的に他材種を使うほうが合理的である場合はその限りではない ※岐阜県産が原則ではあるが、予算的にやむを得ない場合は国産材を使用することができる	◎												
	② 地域材利用の1棟当たりの割合(必須)	<input type="checkbox"/> 50%未満 <input type="checkbox"/> 50%以上 <input checked="" type="checkbox"/> 80%以上	◎												
	③ 標準的な地域材の使用部位(必須)	<table border="1"> <tr> <td>主要構造材</td> <td>土台: <input type="checkbox"/> 使用していない    <input checked="" type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> <tr> <td></td> <td>柱: <input type="checkbox"/> 使用していない    <input checked="" type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> <tr> <td></td> <td>梁・桁等の横架材等: <input type="checkbox"/> 使用していない    <input checked="" type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> <tr> <td>羽柄材</td> <td>間柱、根太、垂木等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない    <input type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> <tr> <td>造作材</td> <td>枠材、廻縁等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない    <input type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> <tr> <td>板材</td> <td>壁板、床板等: <input type="checkbox"/> 使用していない    <input checked="" type="checkbox"/> 使用している</td> </tr> </table>	主要構造材	土台: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している		柱: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している		梁・桁等の横架材等: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している	羽柄材	間柱、根太、垂木等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> 使用している	造作材	枠材、廻縁等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> 使用している	板材	壁板、床板等: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している	◎
主要構造材	土台: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している														
	柱: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している														
	梁・桁等の横架材等: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している														
羽柄材	間柱、根太、垂木等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> 使用している														
造作材	枠材、廻縁等: <input checked="" type="checkbox"/> 使用していない <input type="checkbox"/> 使用している														
板材	壁板、床板等: <input type="checkbox"/> 使用していない <input checked="" type="checkbox"/> 使用している														
	④ 地域材の流れ(フロー図)などグループの取組に関する補足説明														
b	①-1 地域材在庫把握の仕組	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 流通およびプレカット業者から発行される定期書類にて在庫状況を把握する	◎												
	①-2 地域材価格の共有の仕組	<input type="checkbox"/> ない <input checked="" type="checkbox"/> ある → 内容: 流通およびプレカット業者から発行される定期書類にて価格変動状況を把握する	◎												
	② グループ全体における地域材の需給予測	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 当グループによる施工棟数自体は少ないため、市場に影響をあたえるものではないが、業界として供給が滞りがなければ上記業者からの定期書類には注視している。	◎												
c	①-1 畳の活用	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 今年度の使用予定枚数(1畳換算)50枚	◎												
	①-2 和瓦の活用	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 今年度の使用予定枚数:70坪	◎												
	①-3 襖の活用	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 今年度の使用予定枚数(3×6換算)40枚	◎												
	①-4 障子の活用	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 今年度の使用予定枚数(3×6換算)40枚	◎												
	②-1 その他地域の伝統的な素材の活用	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 美濃和紙、東濃地域のタイル、飛騨地方の家具などほぼすべての家において活用している。	◎												
	②-2 その他地域の伝統的な意匠の活用	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 顧客の好みもあるが、「うだつ」や「本屋普請」のイメージを踏襲する。	◎												
d	① 地域の伝統的なデザインを継承する取組	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: プラン作成前に現地調査を行い、近隣とのデザイン特徴とともに提案するよう心がけている。	◎												
	② 地域の住まい方の継承につながる取組	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 顧客に聞ける範囲ではあるが、近隣との関わりや、顧客の親類関係等バックボーンを知ることや、土地や建物の継承の仕方など含めて、顧客の人生に寄り添えるような住まい方を提案するよう心がけている。	◎												
	③ 地域の街並み形成へ寄与する取組	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 会議でその家を計画する地域に自然に溶け込むデザインについての議論を行っている。	◎												
	④ 和の住まいの要素を取入れた取組	<input type="checkbox"/> 行っていない <input checked="" type="checkbox"/> 行っている → 内容: 地場の素材を多く使い、屋根勾配、開口部、外壁素材をうまくセレクトしている。	◎												
	その他 ※上記項目以外でグループ独自のルール・目標があれば記入してください。	私たちは、地域の家づくりが、単なる懐古主義的な家や先進的あるいは保守的デザインについて正悪の極論に偏らないようにすることであると考える。私たちはアーティストではなくプロダクトデザイナーであるので、あくまで顧客の要望や嗜好を上手く取り入れることが一番のポイントである。デザインの押し付けにせず、かつ家の形状や開口部配置などバランスよくセンス良く提案していきたい。顧客へのプレゼン前に平面プランと外観デザインについては日頃から議論を交わす活動をしている。	◎												

カ. その他

【平成30年度対応方針】

		◎、○ 記入欄	
	東日本大震災の復興に資する取組	3.11に近い朝礼や定期会議等では黙祷、被災地の現状、福島原発の現状をメディアの切り抜き等を用いて話し合いの場を設けるようにしている。 また「買って支援」はもとより、遠方ではあるが「観光に行って支援」できる時期になりつつあるので積極的にグループ内で啓発していきたい。	◎
	平成28年熊本地震の復興に資する取組	地震と被害状況がこれまでと認識が変わっていること、築年数と被害が必ずしも一致しないなど興味深い研究結果が報道されている。そういった情報の共有を極力行うとともに、引き続き、材木や家具などを「買って支援」を積極的に活用していきたいと考える。	○

※) 行の高さについては記載する文章の長さなどにより適宜、調整して下さい。

1. 地域型住宅の名称・対象地域(必須)	(地域型住宅の名称) ぎふの杉を使う小さな家	(地域型住宅供給対象地域) 岐阜県全域、愛知県
2. グループの名称・結成年月(必須)	(グループの名称) 岐阜・愛知の街並みを向上させる草の根運動	(結成年) 2012 年
3. 過去のブランド化事業採択グループ番号(必須)	06-0249-0405	

4. 地域型住宅グリーン化事業のねらいに対する取り組み

キ. グループが取組む木造住宅・建築物の特徴

※この項目は、高度省エネ型、優良建築物型を申請するグループのみ記入してください。

※申請に係る認定低炭素住宅、性能向上計画認定住宅、ゼロ・エネルギー住宅、優良建築物の性能や特徴等について記入してください。

私たちは、下記のコンセプトを中心にして、地域にとって長く残る家造っていききたい、と願っています。その願いのもと、事務局会社を中心として平成21年度より長期優良住宅制度にいち早く対応した木造住宅を造ってまいりました。このコンセプトのもと、木を活かしたデザイン性やプランの柔軟性はそのままに、低炭素建築物・性能向上計画の基準(外皮の熱性能、一次エネルギー消費量、選択的項目)を規定通りクリアした家を提供していきます。これまでの長期優良住宅認定だけにとどまらず、低炭素建築物・性能向上計画認定を受けることを目指すことで、住宅取得者にむけての制度の情報発信、顧客それぞれの希望に応じた選択肢を充実させ、良質かつ環境に配慮した家づくりを引き続き行ってまいりたいと思います。当グループはまだまだ愛知・岐阜地域では小さいグループで、昨今の不透明な経済状況で計画通り受注出来るかどうか、まだまだ不安定な状況です。しかしこれまでの地道な活動で地域の認知は確実に広がっていると感じています。これからも確実な社会貢献を目指して努力していきます。

**私たちの目指すこと**

- ・岐阜の美しい地域材の可能性を広げる
- ・地域の伝統デザインを大切に
- ・これからの世代に向け新しい住宅デザインをつくる
- ・地域の街並みを向上させる
- ・住宅の基本性能の底上げを図り高性能を確保する

**暮らしやすいコンパクトな家**

廊下を小さく居室を広く  
イニシャルコスト少ない  
掃除しやすい  
新しい  
大開口窓  
大壁

**代理店情報共有**  
変性  
間取りの工夫  
ランニングコスト少ない  
吹抜  
顧客目線での設計

短く効率的な家事動線  
家族との距離  
勾配天井  
ハイサイド窓  
軒・庇をしっかりと出す

**飽きないシンプルなおデザイン**

**高性能で長持ちする家**

寒暖差の大きい内陸性気候  
健康  
楽しい  
自然を取り入れる  
自然に溶け込む色づかい  
ベーシック  
素材を活かす  
適切な乾燥

風通しの良さ  
定期点検  
点検状況の共有  
安心  
幸せ  
笑顔  
伝統  
真壁  
構造材一部あらし

**岐阜の美しい杉材 ぎふ証明材**

**30年後までの維持管理計画書**

スクラップ&ビルドの終焉  
資産価値  
省エネ等級4

床材にスギ無垢材  
柱・梁桁・母屋はスギ  
土台・筋交いはヒノキ  
加工精度  
森林保護

**長期優良住宅の認定**

生産に関する共通ルールについては太字で表現しています。その他のキーワードについては別添資料参照

「ぎふの杉を使う小さな家」を通して私たちの目指すこと、そして私たちが考える地域型住宅の特徴・具体像等をプロットし、それに関わるキーワードを配置していくと、生産だけではなく顧客の思い、デザインや設計・制度に係るワードも非常に多いことがわかります。

私たちは今回の制度に応募するにあたり、このキーワードすべてにおいて網羅された住宅をつくり、顧客の思いを実現するとともに地域社会への貢献を目指します。

※) 行の